

火山噴火予知連絡会 拡大幹事会

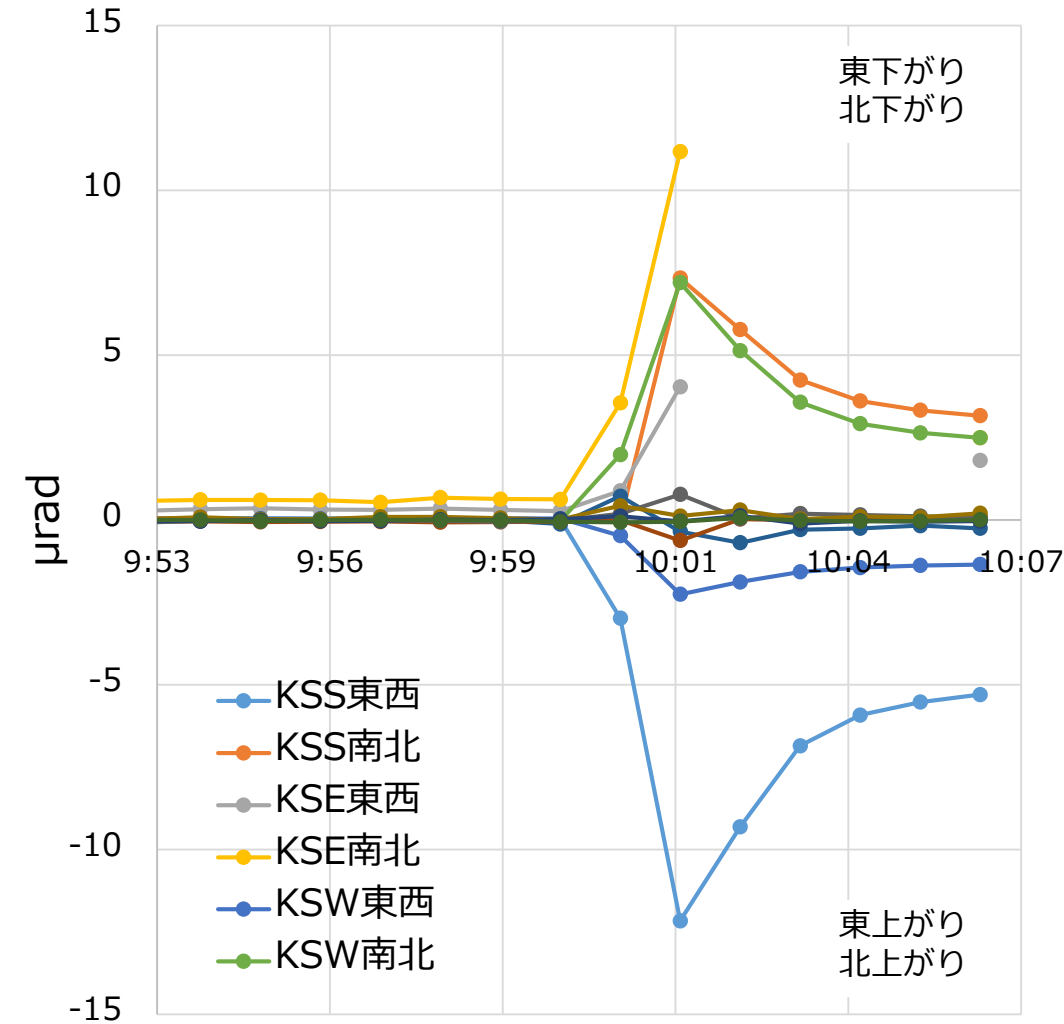
草津白根山

東京工業大学

- p. 1 東工大傾斜計
- p. 2 東工大 GNSS
- p. 3 東工大湯釜観測
- p. 4 水溶性成分

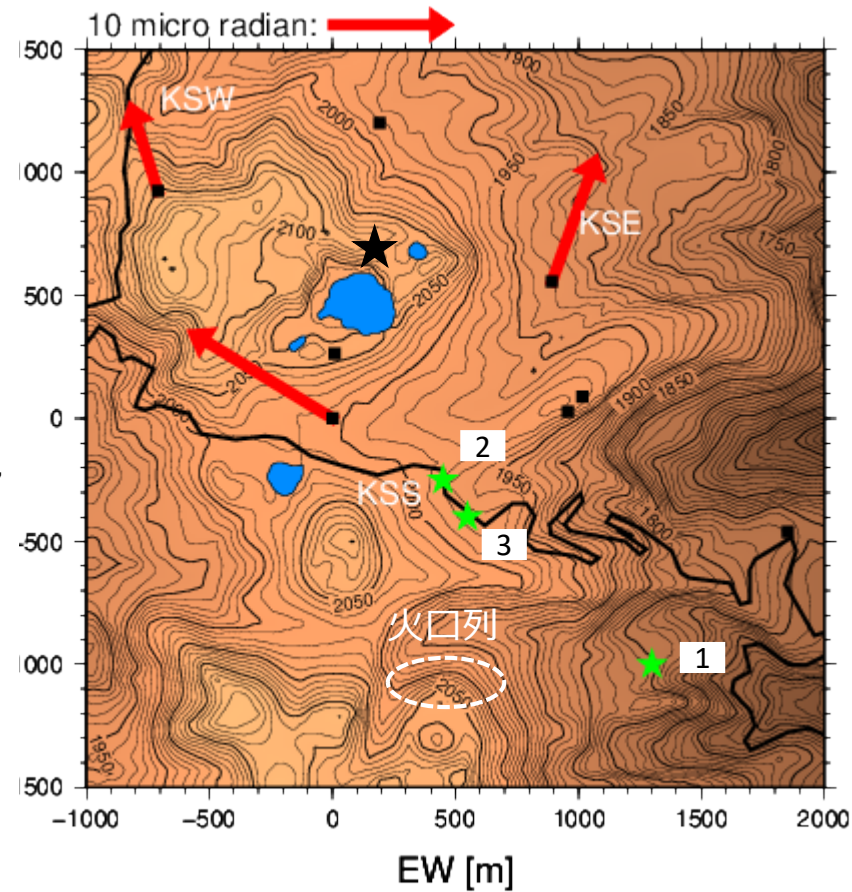
東工大傾斜計

2018年1月23日10時噴火前後の傾斜変動（分値）．10時02分前後をピークとして、その後は反転した．KSEに未回収データがあるため、その部分は表示していない．



2018年1月23日

1



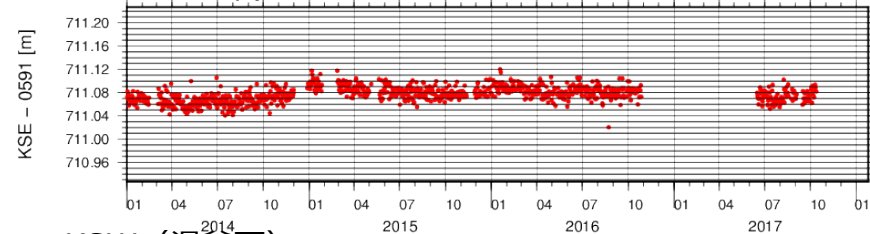
傾斜方向・湯釜南方が隆起する変動が見える。ここでは10:00-10:02の差分値で表示した。黒星印は2014年の膨張力源、緑星印は2011年5月に発生した膨張(1)(2)と収縮(3)活動の力源位置。

東工大GNSS

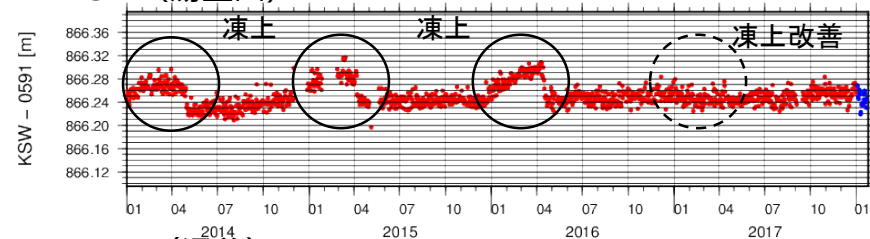
国土地理院草津小学校基準。青は速報解析値。湯釜付近の膨張を示す変動は2015年に収まり、以後は明瞭な変化が認められていない。ここで、23日噴火以降のデータは解析中につき未掲載である。

相対高度

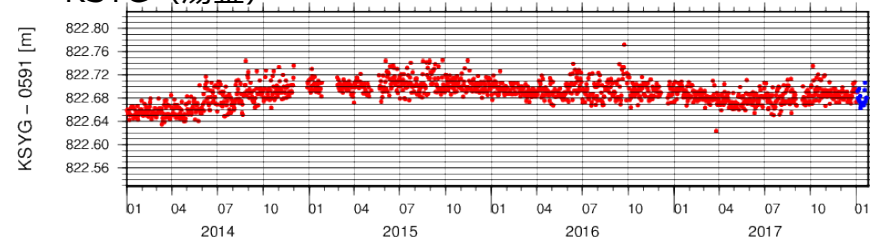
KSE (湯釜東)



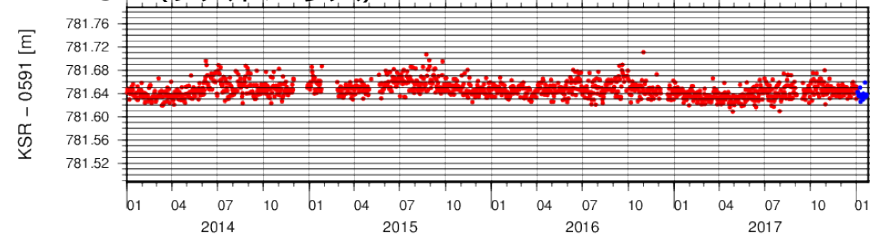
KSW (湯釜西)



KSYG (湯釜)

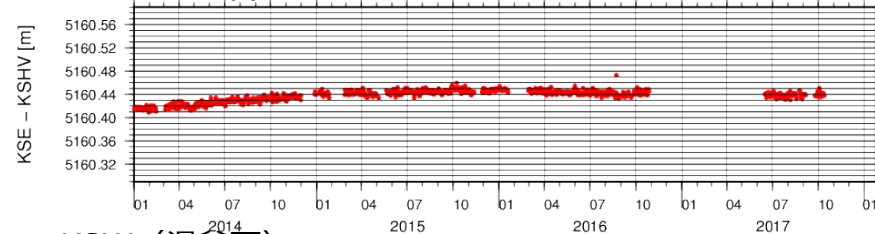


KSR (レストハウス)

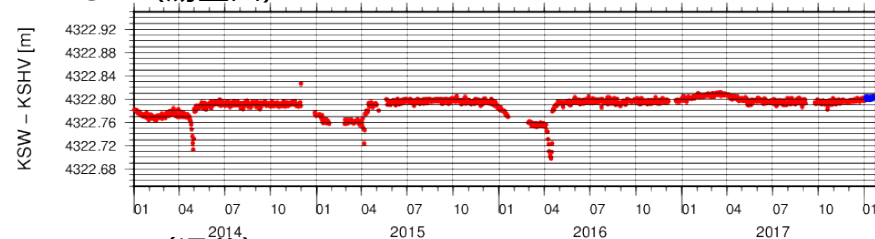


相対水平距離

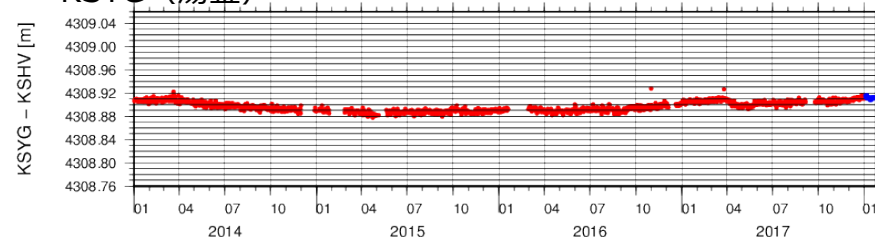
KSE (湯釜東)



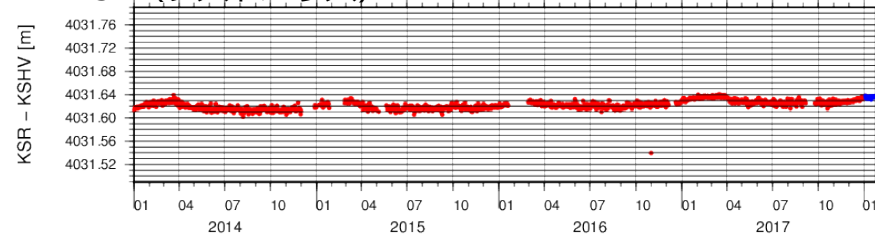
KSW (湯釜西)



KSYG (湯釜)



KSR (レストハウス)



東工大湯釜観測

噴火に対応した変化はなく、噴火後も通常通り推移している。

